西多摩医師会報

第83号 昭和54年8月

神代橋　　青梅市　原田広吉

目　　次

時報
病院新設に対応する医師会の基本的考え方（案）…西多摩医師会地区医療対策委員会…2
時論
医業と営利……近藤　肇…4
文芸・随筆
短歌　山百合の花……小泉　新策…5
夏の医者……菅井　義久…6
吾輩は馬である……葉山　侃…7
山路を登りながら……井村　進一…8
敗戦時の思い出……小沢　昌彦…10
学校身体検査口想……三沢　剛文…11
……米谷　豊光…12
理事会報告……13
事業部だより
公衆衛生部……15
保険部……16
味覚……16
医師会日誌……17
お知らせ……18
同好会だより……19
あとがき……21

時　報

病院新設に対応する医師会の基本的考え方（案）

西多摩医師会　地域医療対策委員会

近き将来到来する医師急増による医療の受給関係の変化および所謂医療産業の出現と云う社会変化は、各地の医師会始め我が西多摩医師会が、おくればせながら西多摩医師会地域医療施設計画委員会（所謂適配）を設置し、現会員の既得権益の保護を打出した数年前とはその状況は異り、より切実な事態となつている。とくに昨今徳州会徳田グループの我々医師会員に与えたインパクトは非常なものであつた。

西多摩医師会地域医療施設計画委員会もこの様な事態の急激な変化を踏まえて、単なる吾々会員の権益擁護という単純な観点から脱却し、西多摩地域の医療の在り方、とくに有限な医療資源の配分を地域医療の概念のもとに、西多摩地域の現状分析および次の各項の如き地域特異性

(1)西多摩地域は非常に広範である。

(2)管轄する自治体が単一でなく、3市5町1村に及び各自治体に夫々個有の問題を抱えている。

(3)地域社会として、衛生都市型と農山村型と社会構造が複雑である。

(4)居住々民も一部を除きマイホーム所有の永住型住民が多く、医療の人間関係を考える上では良い結果をもたらす。

(5)医療面から見て、青梅市立病院、奥多摩病院、福生病院、阿伎留病院と各地域の中に中核ととなる公的病院が存在し、地域医療の重要な役割を果している。

を考慮し、その理論を再構築する必要がある。

A　個人診療所、病院新設に対する考え方

(1)　個人診療所新設に対する考え方

個人診療所新設への対応は、日本医師会長の通達を待つまでもなく、自由開業権は、我々自由を愛し自由社会の構成員の一人として何よりも自由を尊重し、唯一の財産として大切にする必要があることは、自明の事である。しかし現実には競争相手の出現に脅威を感じている吾々自身の開業医心理を、如何に開業の自由を認める心理に転化させるかは大変な問題であり、会員の真摯な討論を通しての意識変革が求められる筈である。しかしその道は苦悩に満ちた道と云える。

(2)　病院新設に対する考え方

病院新設の問題も基本的には診療所開設に対する考え方と同じであり、自由であるのが当然である。しかし医療構造上診療所と病院の持つ機能の違いは、疾病構造の変化、或は最近やかましく言われているプライマリーケアーの面から見て、地域医療における病院の位置づけは診療所とは異り、その新設、増床についても地域医療計画による充分なる配慮が必要となつてくる。徳州会病院は24時間営業を主なキャッチフレーズにして各地に進出し、世論の支持を得ているかのようである。この徳州会病院の主張なり役割を分析、検討すれば、大なり小なり徳州会病院に似かよった目的で新しく当地区に進出を計画する病院に対応する見解が求められると考えます。

事実（24時間営業）と（救急医療の充実）と言葉の違いはあるが、これを大義として病院新設或は増床の計画が当地区でも計画されている。これら両者の間に前述のように言葉の違いはあるが、そのベースには同一の共通性即ち一つには「救急」今一つには「新鋭医療機器利用の効率化」が見られる。これらは夫々に正当に評価されてしかるべきものだが、反面マイナスの面もあることは否めない。特に指摘しなければならないことは救急と云う大義に名を借りて「いつでも、どこでも、受けられる」と云うあらまほしき真の医療の姿を、何でもかんでも自ら慾するものを「いつでも、どこでも、求める」と云ったまやかしの医療の姿にねぢまげ、誤った救急に対する認識を助長するばかりでなく、その誤った民衆の意識に迎合する自動販売機的医療を行い、医の堕落につながる道をその設立の基礎に内

包していると云うことです。（以上堀田資料）

この観点から西多摩地区の救急態勢を現況分析してみると概括的には、昭和40年後半マスコミ、世論に指摘された医療砂漠は、その後東京都医師会、西多摩医師会員の努力により制度的には大変うまく運営されており、その実施の面でよりきめ細い配慮が求められているのが現状である。

ところで救急問題が世に提起された頃から様々の立場で考えられていた救急の概念も現在では整理され、その概念が確立されて来ている。即ち救急と急病の分離、救急（救急は救命につながるもの）急病（急病＋恣意的時間外当診）が言われ又救急の機能の面でと、初療、1次、2次、3次と機能分化が行われている。

当地区の救急体制はこのような概念のもとに、大聖、目白第二の私的病院と福生、阿伎留、青梅市立、奥多摩の公的4病院および公立民営の大門診療所によって救急医療が行われ休日には個人診療所がこれに加わり休日初療体制をカバーしている。

医療経済的に見て救急医療は不採算医療と言われており、特に医学の進歩により救命を伴う救急は不採算の度を増して行く傾向がある。このように考えると、将来の姿としての救急の担い手は、（現在でも強く云われているが）公的病院が勤めることが望まれる。これを補完するものとして私的病院の役割があるものと考えられる。この考えは、先般青梅市立病院にＣＣＵ、ＩＣＵ、ＣＴ、などの設備が設置されて2次、3次の救急をフォローする場が確保された事実を見て、これが裏付けされたと考えてもよいと思う。

B　救急医療の抱えた具体的な問題点

(1)　救急患者入院ベッドの確保

ベッド数の多寡が問題となるが堀田資料によれば、当地区内の入院加療或は救命加療を必要とする患者数は一般が考える程多くない。

(2)　人的資源の確保

この問題はとくに公的病院の救急部門の独立と云った機能の分化を含め重大な問題であるが、早急な解決は困難である。しかし公的病院勤務医の自覚を促したい。

(3)　休日以外の初療体制の整備

休日には個人診療所参加による初療受入体制が確立されているが、他の曜日には一つの体制としての受入態勢は整備されていない。

個人診療所の人間関係および使命感により任意に行われているが、今後に問題を残している。

(4)　自治体の問題

自治体理事者の中には、自己の政治力量の誇示の方策として病院建設を考える人もいるし、反面赤字財政のお荷物として病院を捉え病院の持つ地域での役割を考えない理事者も居ると云った具合で、医療、救急に対する認識度は大変低いと云える。

(5)　営利性の問題

最新鋭医療機器の設備導入には巨額の投資が必要であり、その償却は大変なものになると考えられる。それに伴い医療の行為における営利追及指向が問題となる。

以上の問題点を検討し、病院建設に対応する考え方として

1. 当地区救急医療体制は青梅市立総合病院を主として、阿伎留、福生、奥多摩の公的病院、これを補完するものとして大聖、目白第二病院（現在では主役をなしている）と云う態勢が望ましい。

その為前記6病院間の連繋体制の整備が必要である。

2. 当地区内においては、救急ベッド数は充足されており、救急の名による新設、増床はその必要性が認められない。

3. 西多摩地区における救急体制の弱点は、休日以外夜間初療体制の不備にある。この事実を考えて、初療体制を将来考慮する必要がある。

4. 当地区内関係市町村理事者の地域医療とくに救急医療に果す自治体の役割の重要さを充分認識するよう再認識を求める必要があると同時に、患者、住民の健康を守るための自己防衛の努力を行うよう住民教育をする必要がある。例えば、前述の救急部門の独立、又広域的にみて、各自治体間の協力体制の強化、即ち過去における伝染病一部事務組合による伝染病棟の設立が行われたような救急事務組

合の制度の改定などであり、住民教育としては市町村広報の利用などである。

5. 医師の営利性云々の批判にこたえる為、医の倫理の昂揚、医師会内部自浄作用の働を期待する。

6. 最後に吾々の基本的人権を踏まえて個人の自由と云う問題を充分考える必要がある。

以上列挙した地域特異性および問題点を充分考慮した地域医療計画を立案することが肝要である。この地域医療計画案をもとにして、現在西多摩地域にみられる個人診療所、病院の新設および増床計画或は所謂老人病院の急増に対する正しい地域医療施設計画委員会の対応が行われることが望ましいと考えると同時に、この問題は、会員間で充分に論議を行い、会員の理解と協力を得ることは申すまでもないことである。他面、当地区内関係市町村理事者および地域内住民の理解と協力が充分に得られなければ達成できない事であると考える。

※地域医療対策委員会委員（五十音順）

植田　稔　江本虎雄　大嶽栄二　近藤友好
鈴木　修　中村敬一　西村邦康　箱崎　淳
堀田洋夫　松原貞一　吉野住雄

時　論

医業と営利

── 風当りの強い背景 ──

青梅市　近　藤　　肇

はじめに

金曜会という医者仲間の話し合いの場ができて、比較的若いというか新しいというかそういう医師会員の諸君が、真面目に医業を取りまくいろいろの問題を論ずる場になりつつあるというので、7月20日、第4回目の会合に顔を出してみた。この日は「医業と営利」がテーマ。活発に2時間半ほどの討議がなされた。医者への風当りが強いという声も、ご多聞にもれず聞かれた。

金曜会に出席したあとの余韻が私の心に残ったので、今更なにを……と言われるかも知れないが、「医業と営利」が問題となる背景についてまとめてみた。

医業は営利である

「医は仁術なのだ、医業は営利でない。」とおっしゃる方も多いかも知れない。だが、実質的には、「医業は営利だ」と私は敢えて言い切る。ただし、医のモラルを背景として行う営利なのである。だから、他の職業の営利とは明らかな差異がある。医は仁であり、術であり、道であり、医師には自己犠牲と奉仕が要求され、それなりの地位が認められている。反面、医師には、こういう特殊性があって地位と特権が与えられているだけに、要求されるモラルと制約がある。そのモラルと制約を受けて営利を求めるのが医業なのである。モラルと制約を全うして医業を行う限り、結果として多額の利益を挙げようと社会は非難も糾弾もしないだろう。

医業におけるモラルと制約

「われわれは、人間の生命を預っているのだ。聖職であり、なんらかの特権や利益があって然るべきだ。」という考えは以前からある。だが、人間の生命を預っているということと、単に医師が患者と相接して業をなすということとを同一視して、人間の生命を預っているから聖職なのだという自惚や幻想は慎しまなければならない。航空機の管制官やパイロットなども人間の生命を預っている。管制官の方が医師よりも任務は重いかも知れない。医師には、単に生命を預かるというぼかされた言葉でなく、生命を預かるための"実践"の上でのモラルがあり、それが問われるのである。

医業のモラルは必然的に医のモラルである。勤務医師も開業医師もその差はない。ここでは、焦

点がぼけないように医業という立場で、そのモラルの点にふれてみよう。

(1) 企業として医療を利益追求の具にしてはならない。非医師の経営進出に歯止めが必要である。

(2) 医療は道徳性の高いものではあるが、その中には恐るべき不道徳性が生ずる素地がひそんでいる。自戒自制が求められる。

(3) 医師対患者の関係は対等でなく、患者は弱者であり医師は強者である。強者の弱者への倫理がある。

(4) 患者の人格を軽視する傾向を生じやすいから注意しなければならない。

(5) 患者を全人間的に捉えて医療の対象としなくてはならない。Haman with disease 即ち、病める人間として捉え動物的に捉えてはいけない。

(6) 医師は医療のため自己の生活を犠牲にして奉仕を強いられる。個人の医師が全患者に責任を負うには限界があるが、重症患者や予後懸念される患者に対して、夜間、休日、不在時などのため対応を怠ってはならない。

(7) 常時医療に対応するには、個人の責任に限界があるから、医師の集団として対応策をたてなければならない。

(8) 医療を行うに当って、医術の進歩についてゆけるため研修を怠ってはならない。

(9) 医師は、宗教的、倫理的、哲学的、社会的な視野にたって医療を考えなければならない。

(10) 医道の根本たる生命の尊厳と畏敬ということを忘れてはいけない。

今後どう社会に適応するか

医業が結果的には報酬という営利を求める業であり、また、強者の立場にある特権者であるが故に、そのウラに不道徳性を生みやすく、更には、現行健保制度が現物給付の出来高払いである為、その中に悪の落し穴がある。これを防ぐには、個人の自戒自制を求めるほか、医師の集団としての自浄作用が必要である。医師過剰時代と相俟って、医業間の競合も強まろうし、医療を営利手段とする企業も増加するであろう。そういう中にあって、医師の集団がどのように、内部的にまた対外的に対応してゆくであろうか。

何かにつけ、諸問題を利益集団的に帰納してしまうと見られる医師会が、医療の社会性をもっと強く認識して、医療の社会化が進められる中にあって反動的とならないようにつとめるべきであろう。　（7月22日　記）

文芸・随筆

山百合の花

小泉新策

来る年も　忘ることなく　盂蘭盆に
白く咲きたり　香る山百合

旱魃（ひでり）つゞき　この夏空は水不足
思ひつき　また水資源さわぐ

豊作型　日照りに悩む　農政は
いちはや　叫ぶ米価審議会

貧困な　農政のつぎは　型のごとく
騒ぐはいつも　医療改革

野辺の花　無為に折りとり道に捨て
顧みるなし　なにが　観光

夏の医者

（公立阿伎留病院）　菅　井　義　久

夏の医者、あまり知られていないはなしと思いますが、猛暑、酷暑といわれる日々を迎えるようになって、ふと思い出したものです。ある人の家族が腹をこわした。近所に医者もなく、六里も離れた山向うへ、甘井羊羹という古い医者に往診を頼みに出掛けた。遠路嫌がる羊羹先生を無理やり、薬籠をもたせて同行させたが、近路をしようということで山越えをすることになった。炎天下の山越えはさぞ大変であったろうと思いますが、頂上附近につくと、あろうことか、二人はうわばみに呑み込まれてしまった。真暗でなま温いうわばみの胃袋の中で、甘井羊羹先生、考えあぐねた結果薬籠をとりよせ、ありったけの下剤を胃袋の中に撒いたというわけです。その結果は、その通りで、のたうちまわるうわばみの尻から、ライスカレーの中の2個の肉のかたまりさながら、とびだした二人は、一目散に山をおりたという次第です。病人の家に着くと、羊羹先生、汚れた体を井戸端で洗い、早速先刻の患者を診察したところ、大したことはなく、物あたりであろうということになった。何か悪いものでも食ったかと聞くと、「ちしゃ」のごまよごしを沢山食ったという。「ちしゃ」、今でいう山菜の一種と思いますが、広辞苑によりますと、萵苣という字を書き、きく科の草木で今のレタスのことのようです。羊羹先生、夏のちしゃは腹にさわることがある、それが原因だとばかり、薬を処方せんするも、気が付くと、薬籠がない。なんと、薬籠はかのうわばみの腹の中に置いてきてしまったのです。薬籠がなければ今後の商売にもさわることばかり、みんながとめるのもふり切って、羊羹先生再び山に昇りました。頂上につくと、先刻のうわばみが、木の枝にぶらさがって、ぐったりしています。下痢による脱水が原因と思われます。そこで羊羹先生、うわばみに向かって、実はさっきお前の腹の中へ薬籠を置いてきた。それがないとわしも商売ができないので、今一度呑み込んでくれと頼んだというわけです。するとうわばみは驚いて、それは駄目だ、夏の医者（ちしゃ）は腹にさわる……。

なんともたわいないはなしです。「夏の医者（ちしゃ）は腹にさわると言いたいばかりに、無理に辻つまを合わせているように思いますが、「小咄は耳から耳へ成人し」ともいうように、これも亦一題のはなしなのでしょう。

※　※　※

諸兄におかれましては、今年の夏はいかゞお過ごしでしょうか。聞き及ぶところによりますと、まとめて一週以上も、診療所を休みにして、夏休みをなさる先生も多いとか。大学の教室にいるころは、われわれも毎年3～4週ずつの夏休みがありました。現在もそのようです。毎年のことですが、病院の夏期は、常日頃よりむしろ忙がしくなるのが常のようで、今年も亦例外ではないと思います。加えてもろもろの内憂外患は勿論のこと、今まで3年余、われわれ外科のスタッフの一人であったu先生が、7月末で退職し、開業の運びとなりました。われわれの外科は、それまで、教室からのローティション出張の医員を加えて4人で行っておりましたが、今回のu先生の退職後、教室からの補充のめどがたゝず、欠員のまゝ今夏を迎えることになったわけです。こんなありさまですから、夏休みはおろか、病気ひとつできません。さしずめ、先程のうわばみの腹の中にいるような心境で、八方塞がりのお先真暗の状態です。どなたかよい下剤がありましたら、是非分けていただけませんでしょうか。

吾輩は馬である

秋川市　葉山　侃

吾輩は馬である。時は昭和15年。吾輩は山砲隊の厩舎に居住している。前回のお話では、厩舎の通路が兵隊達の話声、足音、桶のぶつかる音で騒々しくなって、吾輩達の食事の用意が始ったところで終ったが、今回はその食事についてお話しよう。吾輩達はもともと草食動物なのであるから、戸外の広い草原で、太陽のもと、野づらを吹き渡ってくるそよ風に、立髪を撫でさせながら、あのムッと鼻をつく草の香りを思いきり吸いこんで、青草を食べるのが大好きだ。舌を長く出して草を束にして引きち切り、それをまるめて奥歯でゆっくり噛みしめ噛みしめ味わうのが最高である。だがこうして家を持って生活するようになってからは、三度三度草原に出て食事するぜいたくは許されない。そこで部屋にいながら、兵隊が運んでくる食事で我慢せねばならない。上げ膳、据え膳のはずだが、矢張り草原に出かけて食べる時程のおいしさはない。たまに演習や行軍で行く練兵場などの草の香りが、懐しく思い出される。さて厩舎における食事はどのようなものが出るかと言うと、矢張り穀類が主になる。即ち燕麦、大麦、大豆、トウモロコシ、等の穀類、それに切ったわらとか乾草、又は兵隊が刈ってきてくれる青草、嗜好品としてフスマ、米ぬか、等を加え、塩をまぜて味つけする。人参等が入ると言うことは無い。以上を大きい木製の桶にもりつける。昔から大食いを牛飲馬食と言うだろう。事実吾輩達は体格が大きいし、運動量も多いので大いに食べる。食べないことには体がもたない。こうして桶にもりつけをした料理を、兵隊が重たそうに抱えて持ってきて部屋の入口の柱にぶらさげる。その桶に顔をつっ込んで食事をするのだが、この恰好が吾輩には気に入らない。ぶらさげないで、足元にでもおいてくれたら、もっと品よく食べられるのにと思うが、兵隊はぶらさげてゆく。どうも吾輩達の仲間に、空腹でイライラすると、あせって桶を蹴とばして料理をひっくり返す無作法者がいるかららしい。食事は割にゆっくりと時間をかけて楽しむことにしている。吾輩達は足が速いので、野生の時代に、食事中に外敵に襲われても、それをふり切って逃げることが出来た。だからゆっくり食事する習性が出来たのだが、その反対に脚のおそい動物は食事が早い。ゆっくり食べていては、食事中に外敵に襲われて、逆に食べられてしまう恐れがあるからだ。吾輩達はゆっくり食べるのはいいが、食べ物によって歯を悪くするので、これだけは注意しておかなければならない。さて食事の話はこの位にしておいて、前回に一寸書いたが、外出より帰宅した時の、シャワー、マッサージ、マニュキュア、ペデキュア、のことについて、もう少し触れてみよう。外出後はこれだけのことをやらなければ、健康を害する。即ち兵隊がホースで水道水をふんだんに浴せて汗を流し去り、そのあとタオルでよく拭き取ってくれる。全身が乾いたところで、金ぐし、毛ブラシを用いてブラシがけをする。これは皮膚を鍛え、血行をよくし、フケを取り、皮膚病の発生を予防する。そのあと、肩、背中を按摩してくれる。管理の中では、蹄の手入れが最も大切である。蹄をよく洗い、蹄鉄の間につまった泥を完全に洗い出してから、そのあとに蹄油をたっぷり塗り込む。蹄を不潔にしておくと、蹄から病気になるから十分に気をつけなければならない。ついでに申し添えておくが、人間様が案外無関心に見すごしている馬の脚についてである。馬の脚と一口に言われるが、間違って考えられるようで仕方がない。馬の前脚と言われているのは実は人間様の上肢に相当する。その上肢の上腕の部分は、馬体の中にかくれているから外からは見えない。スラリと伸びている前脚は、実は人間様の前腕に相当し、前膝に見える部分は人間様の手首に相当する。だからその下にスラリとまた伸びている部分は手骨で、地面に接している蹄は手の爪に当るかけになる。同じように後ろ脚は人間様の下肢に相当し、大腿骨は馬体の中にかくれて外から見えない。逞しい馬の臀部から力強く突き出しているふとももに思われる部分は下腿で、後ろ膝に見える処は踵に当る。それから下方えスラリと伸びた部分は足骨で、地面に接している蹄は足の爪に当る。説明が少しやゝこしくなったが、要するに吾輩達は前後脚とも爪先で立っている。人間様はバ

レリーナだけが足の爪先立ちで踊っているが、吾輩達は手足共に爪先立て↘立っているから機動性もバレリーナの2倍以上になろうと言うものだ。もしバレーを踊ってみせてくれとお望みなら、ピアッフェとかバッサージュ、などという高等馬術のバレーを踊ってみせますよ。けれども今は食事のすぐあとなのでやめておきましょう。

お腹もふくれて少しねむくなってきたことだし今回のお話はこの辺でさよならしよう。

山路を登りながら

秋川市　井　村　進　一

六枚の原稿用紙を前にして、私はつくづく思う。自由とは何と不自由なものであろうか。課題を与えられれば何とか恰好もつけられよう。しかし、何でもよろしいと言われると、自分の貧困な思考が立ち現れて戸惑うばかり。何とも自分が情無い。

私は言葉の発達が遅い上に、極端に人見知りをする幼児であり、母親は心から「この子は知恵おくれではないか」と心配したそうだ。小学校のガキになっても、ひどくのろまで、記憶力の悪さは抜群であった。そんな私も今では四十才の後半になってしまい、生来の怠け癖も手伝って日に月に健忘症の度が強い。

書くに価する何物も持ち合わせない場合、安易で無難な方法は、怠惰な私にとって他人の言った名言を借用することだろう。下手に借用すれば盗作になる。従って、紹介するという無難な手法をとることにした。

去年の暮頃だったと思う。今でも記憶に残るある書物があった。本の題名も、その著者の名前もすっかり忘れている。御存知の先生がいらっしゃいましたら、是非御教え願いたい。

「山路を登りながら、こう考えた。
智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい」
おなじみ、夏目漱石の「草枕」、冒頭の名文句。その著者は、これ程まで的確に日本社会のあり方を表現した文章はないという。私もそう思う。著者は「草枕」を翻訳した場合、西欧人が如何に奇怪な印象を持ち、理解不能な文章として、読み続ける努力を放棄するかについて書く。外側から日本を観るというその発想に私は脱帽した。以下、原文にそって著者の云ったことを想出し、なるべく忠実に御紹介する。

智に働けば角が立つ——論理的、理知的に、ものごとを処理すれば、ことが荒立ってくる。これは「智に働かざれば角が立つ」の誤訳ではないかと思う。ことが円満に運ばないのは、ものごとが理知的に処理されないからだ。論理こそ納得の規準だと彼らは考える。まるで逆だから「誤訳」と思うのだ。

情に棹させば流される——感情の世界に入れば相手の情にほだされて、自分の立場が崩れてしまう。そんなことってあり得るだろうか。共感とか同情は人間として当然だが、自分も一緒になって流されるような人間がいるとすれば、それはドン・キホーテだ。これが誤訳でないとすれば、日本人はドン・キホーテなのか。経済大国にのしあがったドン・キホーテなど、形容矛盾もいいところだ。

意地を通せば窮屈だ——彼らはここに到って絶句する。まったく逆ではないか。自分の意志を貫けば、そこに「自由」を感ずるのが常識だ。この主人公は、反対に、意志をつらぬくと「不自由」に感じるという。もしこれが誤訳ではなく、日本人の愛読書だというなら、日本人はわれわれとはおよそ正反対の人間だ。しかし、そんなことはあり得ない。これはきっと、日本の「ガリバー旅行記」なのだろう。

とかくに人の世は住みにくい——こんな人間社会なんて、ありっこない。これはきっと、悪い冗談か、シャレなんだ。とてもじゃあないが、つき合いきれない、と彼は本を閉るだろう。

漱石のこの言葉が、すんなりと「真理」の響きをもって耳に入ってくる。それほど特異な社会が日本人の社会なんだろう。私の記憶によれば、日本の稲作民族としての、画一化を強制する社会、

他者と異れば本能的に不安を感じる民族だ、と著者は結論を下していたように思う。

他人と異った自分の意志を通せば、それはイジと呼ばれ、周囲から無言の圧力が加わって窮屈になる。情を抑えて理知的に行動するとたちまち角が立ってくる。智を働かせることは、とりもなおさず、異を唱えることとなる。

個性あっての人間を、画一化し、価値観の発露である「遊び」行動をさえ均質化させている日本社会。異邦人の眼で眺めれば、奇怪といわざるを得ない、日本の特異な一面を認識する必要がありそうだ。異邦人には、権力による強制で均質化されるのならば、まだ理解は出来る。しかし、多分、彼らには、すべて自発的にそうしているかの如く映るのが、一層、薄気味悪さを感じさせるのだろう。「日本株式会社」のイメイジは、ここに定着したもののようである。

「意地」といえば、これまた、何かの本で読んだ面白い定義が想出される。

本来は、功利をはなれて「思いとんだら、いのちがけ」ということであるが、しばしば負け犬の自己満足ともなり、ときにゴテドク目当の大義名分ともなる。オトコ一匹、ひとたびイジをたてれば、ときに涙をのみ、ときに血のにじむ想いをし、ときに手に汗を握るなど、各種大量の体液の流出を覚悟しなければならない。イジは体液の中にこそ宿る、というようなものであった。私如き、乾燥性体質の人間には、意地を持つ能力が先天的に欠落している。

頭の痛い問題が、魚卵の如く密集して陸続する毎日、魯鈍な私の頭はますます暗愚の度を加え、ときには遂に停止してしまう為体。刃のような鋭い論理と、妖しいほどに的確な措辞をもって、快刀乱麻を断つ、というのは、夢のまた夢で、如何なるきらびやかな夢想も持たない実務家の能力が必要だと痛感する。しかし、それもない。

何をくよくよ川端柳
　水の流れを見て暮らす

これは坂本竜馬の即興唄であるという。寺田屋殉難の志を弔う端唄にもう一つ

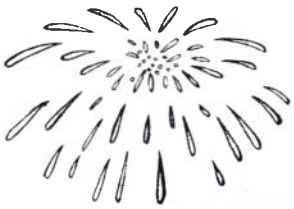
咲いた桜に　なぜ駒つなぐ
　駒が勇めば　花が散る

というのもある。諦観と時勢の機微が見事に出ている。こんな端唄を想い出すと、私は白昼夢をみる。畳一枚の空間と、その日喰らうものがあれば生きるにことかかぬ。人間の欲望の果てしなさに目がくらむ。欲望に縛られなければ「自由」がある。エピキュリアン（快楽主義者）という言葉はエピウロスの名に由来する。「足るを知る者の最大の収穫は、自由である。」と彼は云った。苦痛のないことが快楽の必要条件であり、精神的快楽の核は、自然に湧き出るような自由だという。

「僅少で満足せざる人に対しては、何ものを以ってしても、決して充分ではない」というエピウロスと、ストイックなストア派とに、かくも共通した面がある。「自由」への光線のあて方が異うだけであるように思われる。エピウロスほど誤解を受けつづけた哲人もめずらしい。

何はともあれ、私は無作為の策を最上の策と心得ている。僅かばかりの光を求めている人々が余りにも多い。私は自らの無化を決意することなくして、光を提供することは出来ないだろう。

（起承転結のない話になった。会報の埋草となればそれでよろしい、と思って記した。）



敗戦時の思い出

青梅市　小　沢　昌　彦

戦後三十有余年は、正に激動激変の時代であったと言える。私達の生れ育った日本は、未曽有の無条件降伏を受諾し、神国日本は戦勝国の占領下におかれ、現人神の天皇は、人間宣言され、聖戦達成のため総力を結集した結果は水泡に帰した。更に極度の食糧不足、前途の不安、ヤミ物価の横行、人心の荒廃等は恐らくは現在のベトナム難民の姿に、外見も心理的状態も大差ないような状態であった。その様な訳で、あまり思い出したくない記憶の底から、印象的な事柄を二、三とりあげてみた。

(1)疎開　昭和十九年初夏の頃、本土空襲必至とみて強制疎開が始まり、私達の住んでいた品川から、知人の知人のまた知人（全くの他人）というような関係を頼って青梅の地へ疎開した。家財道具を大八車に積み込んで（これに全て載ったから不思議）、どこから甲州街道に入ったかはさだかな記憶はないが、親戚の者と二人で、夜通し一人が引き一人が押して青梅に向った。当時はそんな風景があたりまえで、あの甲州街道は、リヤカー、大八車、木炭車等が疎開の荷物を運び右往左往していたのである。昼前に出発した私達は、夕方になり、のどがかわき、疲れもひどく、腹はへる等々で今思い出してみると福生の幸楽園の少し手前熊川の並木道あたりで、もうこれ以上足が前に進まず、その場で倒れるようにして寝てしまったようだ。何時間か仮眠のあと、夜が白み再び出発。今度は、小作の坂の所でもはやなんとしても前に進めぬ。現在の大力レストハウスの前の畑で、再び倒れる様腰を下ろしたまま動けぬ。大げさに云えば生きる限界の状態とはこのことか、無断で畑のじゃがいもを引っぱってみると新しいじゃがいもができている。泥を払って生のまゝ一つ二つ口に入れたことが思い出される。やっと一日がかりで昼少し前に、目ざす長淵の玉泉寺に、疎開したのである。

(2)空襲　通学途上何度か空襲にあった。ある時、武蔵境の駅で、突然空襲警報が出て、駅前の広場で身を伏せて空を見上げていると、バラバラと何発もの爆弾が頭上に投下された。あと何秒の命と思ったところ、遙か彼方の方角で、地響きをたてて落ちたこともある。東京大空襲の翌日か（？）、中央線は飯田橋までしか行かぬ。駅のプラットホームから見ると、あたり一面見わたす限り焼土と化し、強い風が焼け落ちたトタンがゆらゆら不気味な音をたてている。本郷に向って歩き始めると茫然と坐っている人、傷ついて膝を抱えている人等々空襲のひどさをまざまざと見た。大学の屋上から下谷の方を見ると、ここも又、一面焼野原でさえぎるものが全くない。何日かして学徒動員で築地の聖ロカ病院附近に行ったことがある。あの隅田川は、一面に死体が防空頭巾を被ったまゝ、次から次に続いて流れてくる。犬を連れた人もあり、顔、手足はむくんで、正にこの世の地獄図のような光景は今なお忘れられない。

(3)敗戦の日　暑い日であった。私は海軍軍医志望の東大医専の二年生。さつま芋の芽の出た殻や、ふすまを食べる日常生活であった。当時の願いは銀メシ（白米ごはん）をたらふく食べたいのが願いであった。土地の人は誰も耕やさぬ山林のわずかの土地を耕し麦を作っていたが、麦畑は耕作する青年と同じように、ひょろひょろとしていて実が入っていなかった。今日は大事な放送があるということで、ラジオを聞き入った。今だかって聞いたこともない天皇陛下の声が聞こえてきた。意味は耐えがたきを耐え、忍びがたきを忍んで、さらに戦えと言うのか、降伏しろと云うのか解らなかったが、その後に無条件降伏を受諾したとのことであった。勝利に向けて邁進し、国をあげての固い絆がバラバラ断ち切られた様な虚脱感と、前途に対するいい知れぬ不安感につつまれたことが、今でもあざやかに甦えるのである。

当時をふりかえると、現在の経済大国日本の姿は、正に隔世の感がある。しかしなお、核保有競争下より強力強大の兵器を増産しつつ、力による平和共存や、又世界いたるところで戦争の危機をはらむ様相を見る時、人類の精神面の向上の遅々たることを、嘆くのみである。そして、巡りくる敗戦記念日（終戦とはごまかしであって私はすきではない）を迎えるにあたり、世界の国々が、二度と戦争の愚かさや、悲劇を繰返さぬことを願うのみである。そして生きながらえた私は、朕の命令で亡くなられた多数の同胞や、戦火を交えた国々の無数の戦争犠牲者の霊の安かれと心から念ずる次第である。

学校身体検査口想

秋川市　三　澤　剛　文

今年度の市内小中学校生徒の健康診断は特に心電図検診者の選出と問題にされ留意が望まれた脊椎変形（脊椎側彎曲症）の摘発に重点を指向した。心雑音に就ては機能性器質性を問わず、又リウマチ性先天性貧血性等の基因を考慮することなく概ねLevineの心雑音の分類による一度二度即ち注意深い聴診でのみ聴取出来る微弱な雑音で雑音の持続を確認すること、及聴診器をあてた途端に聴き得るが弱い雑音と記録されているものに注意し雑音の音質、吹鳴様（blasend），rollend，sägend（sowing），giesend，musikalisch，mehanisch，grinding，の七音に注目し、脊椎変形者に就ては定められた検診法に基き行った。この検診に当り不自由と云うのか、困難と云うのか支障を覚えたものゝなかで心音聴診では検査直前に廊下を走ったり、教室でふざけまわったり、運動直後に於ける機能性雑音との区別であり、脊椎側彎検査等では生徒に直立の正しい姿勢を行わせる為の言葉であった、気を付けの姿勢をして、と言っても通じない。直立不動の姿勢をしてと言っても、正しい姿勢をしてと言っても出来ない。両膝を伸して踵をつけて首筋背骨をのばして、頷をひいて、胸をはって、両手を垂直に上腿につけて、と言って、やっと正しい姿勢が出来たのである。この様なことでは時間がかゝってとても二時間や三時間で二百人も三百人もの生徒の検査は出来ない、十二、三人診て中止してしまった。せめても、直立の姿勢をとらせる言葉の様なものがなければとても能率はあがらない。どこかの学校検診にヘルパーとして行ったとき、その校医の先生は養護教諭、担任の先生に検診の方法を教え実施させ異常のあった生徒を校医が再診する方法を行っていたが、これはよい考えだと思ったが、その検査の方法を見ていると、やはり気を付け等の号令的なものは行っていない。直立の姿勢から最敬礼の姿勢即ち両手掌を両膝前に位置し腰を深く曲げさせるのに先生が生徒の脊中を押し曲げさせ腕をつかんで膝に位置させている。これを三百五十人以上の生徒に一人一人させている。気を付け、最敬礼の号令による姿勢を行わせるのに号令も言葉もないのだから大変である。身体検査が終り、校長、教頭両先生とお茶を飲みながら、気を付けと云う言葉も号令も生徒には通じないのですが、何んと言えば脊椎側彎の診断をするのに気を付けの姿勢をしてもらえますか、と質問を行ったら、校長先生は唯苦笑して何も答えませんでしたが、校長先生の傍らにスポーツ服を着た先生が、直立不動の基本姿勢はありますが、気を付けと言う号令の様なものはありません。その様な号令は軍国主義につながると云うので無いのです。確かに直立不動の基本姿勢はありますがとその姿勢を実演して見せ確に号令があれば能率的に行動する事は出来るのですが、兎角軍事教練に連ると言われ行っていませんが先生からの質問として研究してみます。参考にしたいと思いますとの事であった。号令がないと云えば修学旅行に同行しての二泊三日の三百数十名にわたる生徒の行動移動に対し、一言の号令もなく行われた事は美事とも不思議とも感じた。乗車準備、乗車、の号令はない。

駅のホームに入って来た電車の乗客が降りるや生徒はその電車に乗り始めた。間もなく、皆んな下りろ、此の電車ではない。次に来る電車だ、早く下りるんだ。これが号令かなにかは知るよしもないが、この様な号令は至るところで聴かれたのである。即ちおい、こら、どこ見てる、早く並べ、人数を確認しろと大声で担当の先生が言う、委員の生徒が生徒の列の中を割って歩きながら一人二人三人と指をさして数えて廻り、全員います。と報告する。よーし行くぞと先頭にたって歩き始め移動が行われる。今から改札口を通り、六番線乗車ホームに向う第一組から前進と云う意味であろう、号令的なものがあればもっと簡単に能率よくしかも整然と行動出来るものだと思う、声を出す号令が軍国主義につながると云うのなら声なき号令交通信号の如くに、黄色い旗は気を付け、注意、青い旗は前進、笛を吹いたら注目、これは交通のオマワリさんと同様各先生が首から下げている。交通信号命令は違反すれば、何人たりとも罪せられる権力あるものであり、厳然たる声なき号令である。一歩家を出れば誰でもこの号令に随わねば

ならぬ。少しは笛もよいが乗車、注目、前進と発声による号令を行った方が生徒も行動し易いのではないか。十日位前、ＮＨＫ朝のテレビニュースで或る住宅街の町内では昼間は男子が全々居なくなるのでいざ火災等の時の為に婦人消防隊が結成されて訓練を行っていると言う場面で、整列、番号、持ち場につけの号令のもとに整然と行動しているのを見て問題の脊椎側彎症の生徒が増加している原因も医学的理化学的研究もさることながら、こうした気を付け、頷をひき首筋背骨を伸し胸をはった、正しい姿勢を座っていても腰掛けていても、起立していても行う機会が又号令がなくなってしまった事にも原因の一つの因子を譲成しているのではないかと想。

米　谷　豊　光

最近は、今迄気にしない年令が気になるし、又腹のでっぱりが気になるようである。少年老い易く学成り難し、酔生夢死する勿れ、等と数知れず昔の人は教訓をのこしてくれたが、歳月は早いものでなんとなく年をとり、じじいくさくなったものである。既に小生も大正の人間である。保険診査等で生年月日をかくとき、殆んど昭和の所に○をかこみ、大正は素通りである。先日、ある会食で、"米谷君も随分たべるね"といわれてどきっとして即答に困ってしまった。大体会合というのは空腹時にはじまることが多いようである。間食をしないで行くと吾々舌の賞味感が批判を忘れるのか、味わう暇がないのか、何を食べても旨い旨いである。つい、いつの間にか食膳は何もなくなるのである。

いとこが戦争に行くといって宴会によばれた事がある。若かりし頃、礼儀も知らず、食欲いや、空腹も手伝って、くちとりの鯛やヨーカン等折詰をみんなたべて来ておこられた事があった。知らないという事は、いいことでもあり又恥かしい事でもある。

ふとした事から履歴書を書くよう頼まれた事がある。平常の如く学歴、職歴、そして賞罰なしとかいたがふと食歴も書いてみたら、案外腹の中もよくわかるのではないかと思った。

戦争中のたべもの、之は戦前戦中派にとっては体験できた。常識では考えられない食生活だったろう、大なり小なり、苦い経験をもっていることでしょう。一杯の雑炊を食べようとして長蛇の列を作り、待っていた所へ空襲になって、高射砲の破片が落ちる中を列をみださず頑張っていたら、小さな破片が空を眺めていた額におちて、いとこが怪俄をしてしまった。それでも共に、とうとう天井粥（天井粥とはどんぶりのおかゆに天井がうつる）にありついたものだった。天井粥のごはん粒は36粒で、その頃は小生も168 cm　42 kg であった。

津軽海峡をわたるとき、窓に海水がぶつかる船室に入り、ほっとして弁当のにぎりめしをたらふくたべていい気分になったら船は外海に出て大ゆれにゆれ、甲板で全部吐いてしまった。もったいない話である。船にのるときは、控え目にたべるべきだとつくづく思った。北海道といえば猛吹雪それにストーブだ、そのストーブの上で焼いてたべる雪肌というジャガイモの粉をふくうまさ、又マサカリ南瓜という皮のかたいかぼちゃをやいてたべるうまさ、こたえられないものであった。しかし空腹との戦いのとき、凍ったジャガイモを大きな鍋で煮てたべたら家中皆、気分がわるく上や下への大さわぎ、すっかりのびてしまったことがある。ソラニンは熱に弱いときくが凍ったジャガイモにはどんな毒があるのか、未だ不勉強である。

なんといっても津軽のリンゴはうまい。それも雪の下（国光）という奥手の単純な味がよい。所々密がたまった所は又格別である。はじめしらないでその密の所がくさっていると思いすてたことがあった。最近もリンゴを送ったら、くさっているのをおくってくれたといって、捨てたという手紙をうけとった事がある。秋田のハタハタも又シーズンになるといけるものだ。とりたてのハタハタをすしにしてたべる。又卵子がはちきれるほどにはらんだぬるぬるした所をパクッといたゞきす

ばらしい味である。ショッチルというのがあるが、之で鍋料理するとき、どこまで腹に入るかわからないほどたべてしまう。なんといっても土地のものはうまい。"セゴローに腹やられた"といって急患を診た事がある。八戸は喧嘩が多い所だから、腹をさゝれて怪俄でもしたのか、と思い乍ら患者を診たら、セグロイワシをたべすぎて下痢をしているとの事だった。いわしはセグロイワシにかぎるのか、このいわしを塩漬けにしたものをあついごはんで何杯でもたべられるみたい、東京ではこのいわしにさっぱりあたらないようだ。ホヤも又ぷんとする海の臭いなんとも言えない味である。ついうまいので来客にすゝめたりするが案外たべれない人がいるのには驚いた。

八戸のイカのシーズンには、それこそ街中ブンブンとイカの臭いがする。公害にはならないようである。よくもこんなにイカがとれるものだと思う。今日もゴム（イカ）明日もゴムといって寮生活でゴムばかりたべさせられたのもむりはない。先日山梨へ旅行にいったとき宴会でゴムがでた。なつかしくたべようとしたが歯が立たない。山梨のゴムはかたいのがうまいのかも知れない。しみじみと年を感じさせる一夜だった。

八戸の町角でサバがおよぐというと少し頭がおかしいといわれるかも知れない。待ちぼうけみたいな話であるが本当だった。病院が港に近い所にあったものでよく波戸場の近くに遊びに行ったが、海からあがったサバをそのままトラックの荷台に満載して走るので、イキのよいサバは町角のカーブでこぼれおちるのである。もったいないことである。そういうサバにはカモメがなき乍らつゝきにくるし、夜ともなると野犬が横行する港町である。

福生に来てもう5年がすぎてしまった。久しぶりに立山連峰に行った事がある。雄大な自然にいどむ人間の努力の偉大さをしみじみと感じさせるトンネル、ケーブルカー　すごいもんだなーと溜息をもらしてしまう。その終点のターミナル食堂では山の幸、わらび、ぜんまい、塩アジのよくきいたソバの味、正に山（海）の珍味とはこのような事かと思った。

八王子市街の青い灯、赤い灯を眺め乍ら、コックさんに料理して貰い乍ら、昔の豪華な邸宅の面影の一室でたべる料理、人生さまざまな事があるなーと思うこの頃である。

小生の食歴は食うために頑張って来たようなもので、買いだめは何かがのこる。食いだめだけは何ものこらない。わびしいものである。心のかたすみに、勿体ないという戦前の戦中のすくいようのないくいしんぼうの気持ちが、やたらに肥満体をつくり、医者の不養生たらしめているようである。

昭和54年7月18日

理事会報告

報告事項

I　会長協議会報告　（高水会長及び箱崎理事）

1. 昭和54年度東京都予算（医師会関係）の概要について

　都医師会が要求した予算はほゞ全部通ったとの事です。

2. 被保険者証更新に伴う新証の交付について

　7月1日以降に新規に資格を取得した者について、8月1日に交付される新証を交付する事になり、7月1日からでも新証により受診する者がいる事を了承されたい。

6月27日

3. 昭和54年度防災訓練の実施計画について

　9月1日に練馬区のグランドハイツで訓練が行われるに対して、6月5日に第1回の打合せ会があった。

4. 防災設備資金医療融資利率改訂について

　9月30日まで現行5.1％を5.58％に、10月1日以降は5.7％になる。

5. 医療資金等融資の利率改訂について

　㊀制度融資5.9～6.7％に特別医療融資（近代化、㊁ローン等）は6.0～6.9％に改訂される。

実施時期は54年6月18日

6. 医師会年金制度改定について

30才未加入で年金月額15万円確保を目標として改正され、昭和54年10月1日より新制度に移行する。又西多摩医師会内の担当は朝日生命一社だけが取扱う事になった。

7. ファクシミリの取扱いについて

医師会の情報伝達の近代化を図るために導入を計画している。

8. 昭和54年度日医医学講座の実施について

昭和54年7月20日　13:30 ～ 16:00

朝日講堂

演題　細菌感染症の治療の現況

司会　清水喜八郎教授

昭和54年8月9日　13:30 ～ 16:00

安田生命ホール

演題　国民の老化構造の諸問題

司会　吉川政己東大名誉教授

昭和54年8月29日　13:30 ～ 16:00

朝日講堂

演題　がんの再発

司会　草間悟教授

9. 東京都医師会学術講演会

昭和54年7月12日　13:00 ～ 16:00

朝日講堂

学術映画「ショック」

講演　ショックの診断と治療

座長　山村秀夫教授

Ⅱ　多摩地区四者協議会報告（会長）

名称　多摩地区四者連絡協議会

目的　多摩地区における保健衛生事務事業のうち、医師会の協力を得て、又は委託して行う事業について必要な事項を協議し、もって保健衛生行政の円滑な実施を図をことを目的とする。

協議事項　医師会関連事業について、情報連絡意志の疎通を図るとともにその基本的なあり方、標準的な実施方法について協議する。

構成　東京都、市町村、都医師会、地区医師会から各7名ずつ　計28名

座長　都側

事務局　都衛生局に置く

開催　必要の都度開催する。

以上の如く決定され、次回より第1回目として細かい事項について協議されることとなりました。

Ⅲ　都医代議員会報告（瀬戸岡副会長）

159回臨時代議員会に瀬戸岡、大河原代議員が出席。第1号～第4号議案まで協議、全員一致で了承されました。

Ⅳ　三多摩庶務連絡会報告（箱崎理事）

○三多摩医師会懇親会の日程が10月13日(土)と決定され、場所その他細部については後日に決定する。

○南多摩より各地区の病院数、診療所数（有床無床の別）ベッド数などの問い合せのアンケートがありその報告があった。

○北多摩より慣行料金表についての問題

○北多摩より多摩医学会の役員が改選された事当医師会の高水先生が副会長になっておられる。

○三鷹医師会より1才6ヶ月児健診問題について出されたが、四者協議会の決定待ちとなる。

Ⅴ　各部報告

福祉部より中林部長が都医委員会出席の報告

議題 1. 医療資金の利率変更

2. 医事紛争の場合の書類提出様式の統一化が必要である事

3. 医師会共済部会の会員の参加を増す事

4. 休日診療と休日夜間の税金問題

Ⅵ　都医政連全委員会報告

Ⅶ　その他

協議事項

1. 社保、国保審査員旅費について

各地区医師会の状況を調査しましたが、距離その他の条件で南多摩と似ているので、これに準じて、国保3万円、社保5万円を旅費の補助としてお渡ししたい。予算は保険部の旅費から出し、不足分は予備費から出したいが、

全員了承

2. 市町村長と役員の懇談会における議題について

会長より、麻疹の予防接種を西多摩管内間で共通に出来るようにしたいが、北多摩の協定書を参考にして、次回の役員協議会で話し合ってほしい。

3. その他

①青梅の新入会病院のうち、条件付で青梅医師

会がＯＫしたものがあるのだが、その条件に違反しているので問題となっている。

○では入会を一時保留とするか

○すでに入会金も払われているし、又今月のレセプトも出て整備委員会を通過した形になっている。又青梅医師会がその病院の代表者と正式に文書を交していればよかったが、今の状態では入会を保留する理由がないのではないか。

②学校医のうちで永年勤務した医師が年令的な理由で辞した場合、表彰状や報償金を自治体から出してくれるよう依頼したいが検討してほしい。

③近頃普通に使用している薬剤が、臨床医師の知らないまゝに製造中止になって行くことが多くなったが、なんとかならないものだろうか。

④入退会員

条件付のものや確認すべき事情のあるものはよく調べた上で承認とする。

以上

（記　土田）

事業部だより

公衆衛生部

松　原　貞　一

1　予防接種関係

A）　**麻疹**　足立区で２才の男子が、麻疹ワクチン接種後、高熱と痙攣を起して死亡した旨連絡があった。この例もワクチンとの因果関係は不明であるが、麻疹ワクチンは７、８月の盛夏中は、原則として接種は行なわない事になっている。市町村もこの期間は問診票を出さない事になっていると思うが、この期間中に接種する場合は医学的理由を充分御検討の上実施をお願いしたい。

又麻疹ワクチン接種を居住地の市町村外の主治医にも出来るようにしたらという意見もあるが、当医師会としては他の三混や日脳等と同様、予防接種位は、市町村内で出来るのであるから、地区の主治医に実施を願うのは理想的かも知れないが些か過剰サービスの気味があるとして、当医師会としては特別な理由がない限り当分の間は地区内で処理することにしたい。

B）　**ポリオ**　従来は剤形が２ツに分れワクチンを白糖にといて、1㎖宛飲ませていた。この剤形は昭和39年国産化する前、緊急輸入された外国のワクチンの当時の剤形を参考にして決められたもので、このような剤形で投与を行っているのは世界でも日本だけといわれる。来年１月から、この投与剤形が変更され、１人当り0.05㎖の微量をデスポのドロッパーで口の中に落すことになる。この方法は、量が少ないので子供が吐き出したりすることもなく便利であり、且つ国際的にも通用する剤形となるらしい。

C）　**ジフテリヤ**　現在の６年生までは、幼児期ＤＰの二種混合の接種を受けており、来年度よりＤＰＴ３種混合を受けた児童が卒業時のジフテリヤⅢ期を受けることになる。せっかく基礎免疫に破傷風を入れてあるのでⅢ期も破傷風を入れてＤＴ接種をした方が、医学的にもよいのではないかという考え方があり検討されている。ワクチンの価額はＤ単純にしてもＤＴの混合にしても殆んど変らない由。

2　１才６ケ月児健診

23区内では、殆んどの区が契約を終え既に健診を実施している所も数ケ所ある。三多摩では、小平市以外は未だ契約を行った所はなく、西多摩の市町村も早くて来年度からと言っているので、当分は実施の予定はない。６、９児等の乳健委託料は現在１人当り2800円であるが来年度より、3000円になる予定である。

保　険　部

西多摩医師会

4月分

診療報酬明細書返戻状況

返　戻　理　由	医科（乙表）件　数
1. 記号番号不備不明および保険者名（符号）不一致のもの	117
2. 国保・国鉄等基金と契約してないもの	2
3. 生年および患者名不備あるいは記載ないもの	11
4. 傷病名不備あるいは記載ないもの	15
5. 診療開始日・日数および転記不明あるいは記載ないもの	11
6. 日雇健保で給付期間の満了したもの	0
7. 初診・負担金・再診および往診料について不備不明のもの	1
8. 投薬の場合薬名・用量・回数等が不備あるいは記載ないもの	7
9. 注射の場合薬名・用量・回数等が不備あるいは記載ないもの	1
10. 投薬・注射・X線で点数算出根拠の不明なもの	4
11. 処置および手術で内容の不備なもの	4
12. 検査で検査名・回数・内訳の不備なもの	5
13. 診療内容と摘要欄記入事項とが不一致のもの	0
14. 診療内容および方針の説明を要するもの	7
15. 上記事項に該当しない不備・不明のもの	3
計	188

味　覚

アルコール類と性格が合わず、学生時代より不特定多数女性と喫茶店に入りびたり、コーヒーを飲む慣習があり、いつしかコーヒーの味を旨いと思うようになりました。が然し子造り、子育て、店開き等の難問を抱えてのこの10余年トントその習慣もなくなり、もっぱら我が奥方の調合せるインスタントコーヒーにて文字通りお茶をにごしていました。最近娘の雑誌Non-no（ノンノ）で新宿に「珈琲屋」なる店の紹介記事を見て、一家五人新宿に出掛けたとき、妻に私を除く四人を引率を委せ、単身この店に赴任してみました。

方向音痴ゆえの悲しさ、そのあたりを三周して、三尺ばかりの木の扉の入口に屋号を認め、探険とも開拓ともつかぬ気持で店内に続く階段を踏みしめました。

正午から午後11時迄
年中無休　TEL 371−3482

① 建物は、民家板倉風、先述の入口を開けて15段のこれ又木の階段をのぼりつめると15、16席程度のカウンター式、腰をおろすと殆んど壁全体に世界各国の250種余りのコーヒーカップが並んでおり、気に入ったカップで飲ませてくれる。次に行ったときカップを主人が覚えていてくれるなど奥ゆかしい。照明は昼間は和紙張りの提灯風傘式夜はガス灯、

その二階は一卓を囲み数席、そこにたどりつくまでの階段は、一段一段両端を縄で巻いてある梯子様のものが何ともサマになっている。

② 静かな事が一番いい。中高年一人でもチットモ異和感なし、2人でも3人でも数人でもいい。何か自分をとりもどせる気分だった。

③ 肝腎のコーヒーは、生豆を普通はガスを用いて間接的に培煎するそうで、この店は炭火を熱源に兵庫県一宮産の樽樫木炭一級を使っての直火式培煎だそうで、店の責任者である千葉好胤君に珈琲豆を嚙らせてもらったが、なるほど豆がまんべんなく煎りあげられていると思った。

①②③により、この世の中いい加減な手造りの味横行しているようだが、何か本物のハンドメイドでキメの細かいサーヴィスとゆう感あり。又彼氏は、珈琲ばかりでなく紅茶120種以上（日本では珍しい）も店内にあるそうで、猶日本のいれかたも常々研究しているとの事、茶一筋の人生が、私はとって魅力といった所である。店内に珈琲と紅茶の飲み味わう案内の栞が持ち帰れるのも嬉しい。私にとっては、いまどき心憎いばかりの店である。

先生方のこのコーナーへのご寄稿をお待ちいたして居ります。編集委員一同是非共と〝味党〟の存続を願っております。

（記　道又）

医師会日誌

医療機関数	138	病　院	20
		診療所	118
会　員　数	222	A会員	132
		B　〃	90

会　議

7月　7日　保険部会
　　9日　役員協議会
　　10日　会報委員会
　　14日　管内市町村長との懇談会
　　18日　保健所連絡会
　　25日　理事会（予定）

講演会・その他

7月　7日　整備会
　　11日　法律相談
　　19日　学術講演会

役員出張

7月14日　都医公衆衛生部会
　　11日　五日市保健所定例会
　　20日　都医会長会
7月20日　三多摩会長会
　　26日　三多摩広報部研修会

会員通知

- ○生保に係る付添看護婦等に対する助成事業の補助基金額等の改正について
- ○国保被保険者証の更新に伴う「新証」の交付について
- ○生保による医療扶助運営要領に関する疑義についての一部改正について
- ○7月分の保険請求書の提出について
- ○東京都の特別区、市町村国保の被保険者証の更新について
- ○ポスター（主な農薬中毒の症状と治療法の一覧）
- ○ポスター（健康増進時代）
- ○会報
- ○名簿
- ○麻雀大会案内

法律相談

8月　8日（水）
9月12日（水）

8月行事予定

8月　8日　整備会
　　〃　法律相談
　　〃　役員協議会
　　23日　学術映画会
　　〃　保健所連絡会

金曜懇談会より

7月20日に河辺の六兵衛寿司にて例会を開きました。テーマは「医療（業）の営利性について」でした。回を重ねるにつれて出席される方の数が増えて参りました。自由な意見の交換の場ですのでどうぞ気軽に御参加下さい。次回は8月24日（金）午后8時から、場所は蛙沢ガーデンを予定しております。テーマは「適配について」

〔訂　正〕

81号表紙写真説明に誤りがありました。終りの方、調布の地名のいわれのくだりにある万葉の古歌は次が正しいので、お詫びして訂正いたします。

〔正〕　多摩川に晒す手作りさらさらに
　　何ぞこの児のここだ愛(かな)しき

原歌　多麻河泊番左良須／弖豆久利佐良佐良／番奈仁曽許能児能／己許太可奈之伎
（巻十四）

同好会だより

第85回　西多摩医師会ゴルフ大会

昭和54年6月24日（日）

青梅ゴルフクラブにおいて、猛暑の中で、16名が参加しておこなわれた。吉野先生がネットでイーブンパーで優勝。ベストグロスもあわせ獲得した。次回は8月30日（木）霞ケ関の予定。

氏　名	中	東	グロス	ハンデ	ネット	ランク		新ハンデ
吉　野	41	40	81	9	72	優勝	BG	7
杉　本	47	50	97	24	73	2		22
鶴　田	44	43	87	12	75	3		11
大河原	47	43	100	24	76	4		
波田野	47	49	96	20	76	5		
宇　田	47	45	92	14	78	6		
高　水	47	49	96	17	79	7		
鈴　木	46	50	96	15	81	8		
星　野	57	55	112	30	82	9		
後　藤	48	53	101	19	82	10		
堤	53	50	103	20	83	11		
今　川	52	52	104	21	83	12		
江　本	48	45	93	9	84	13		
松　原	57	46	103	16	87	14		
渡　辺	61	56	117	22	95	15	BB	
川　崎	67	58	125	24	101	16		

第12回　西医ゴルフ研修会

と　き　54. 7. 22.（日）
ところ　河口湖ＣＣ（西、東コース）
てんき　はれ

記

前日の雨もあがり、時折り薄陽の差すくもり空、微風という絶好のコンディションの下、15名が参加して楽しい一日を過した。結果は別表の如く、このところ進境著しい林先生がベスグロで優勝した。なお、この研修会も満2年になったのでハンデ改正を行ない、7月現在の西医ゴルフ部のハンデと同じにした。研修会用の新ハンデは、別表(2)のとおりである。なお、次回（第13回）の研修会は、狛江医師会との対抗戦を兼ねて、9月23日（日）か9月30日（日）の何れかに、河口湖ＣＣで行なう予定です。

氏　名	西	東	グロス	HP	ネット	ランク	新HP	その他
林	40	43	83	16	67	1	11	BG
宇　田	43	46	89	14	75	2	13	
加　藤	53	50	103	22	81	3	21	
鶴　田	45	47	92	11	81	4		
高　水	52	46	98	16	82	5		
羽　場	45	49	94	12	82	6		
杉　本	51	54	105	22	83	7		
今　川	49	53	102	18	84	8		
葉　山	52	49	101	16	85	9		
内　山	46	51	97	11	86	10		
大　嶽	48	52	100	12	88	11		
吉　野	48	47	95	7	88	12		
波田野	55	54	109	20	89	13		
松　原	55	50	105	16	89	BB		
川　崎	52	63	115	14	101	15		

別　表　(2)

54年7月現在ハンデ表

大河原	24	中　村	9
後　藤	19	内　山	11
江　本	10	木野村	36
丸　茂	27	林	11
福　田	36	宮　川	11
足　立	14	藤　田	12
吉　野	7	浜　田	13
市　原	16	矢　島	36
加　藤	21	星　野	30
内　田	9	高　水	17
富　永	24	波田野	20
羽　場	12	大　嶽	12
鶴　田	11	葉　山	16
渡　辺	22	平　林	17
工　藤	14	川　崎	24
宇　田	13	今　川	21
東	26	杉　本	19
松　原	16	鈴　木	16
堤	20		
宮　地	12		

プロ棋士指導碁会

7月8日(日)　日本棋院の河合哲之五段をお招きして、下記の通り指導碁会を催しました。

第　1　回　(前10時　―　正午)

甲斐	4目置いて	12目勝ち
大蔵氏	4目　〃	中押負
栗原先生	6目　〃	〃
亀崎氏	6目　〃	〃

第　2　回　(后0.30　―　后2時)

甲斐	4目置いて	中押負
大蔵氏	4目　〃	〃
栗原先生	6目　〃	〃
亀崎氏	6目　〃	〃

来る8月19日(日)恒例の夏の大会を催します。新入会員の方々で、囲碁を楽しまれる方々は遠慮なく御参会下さい。会場が決まり次第、案内状を差上げますので、甲斐までお申込み下さる様、お待ちしております。

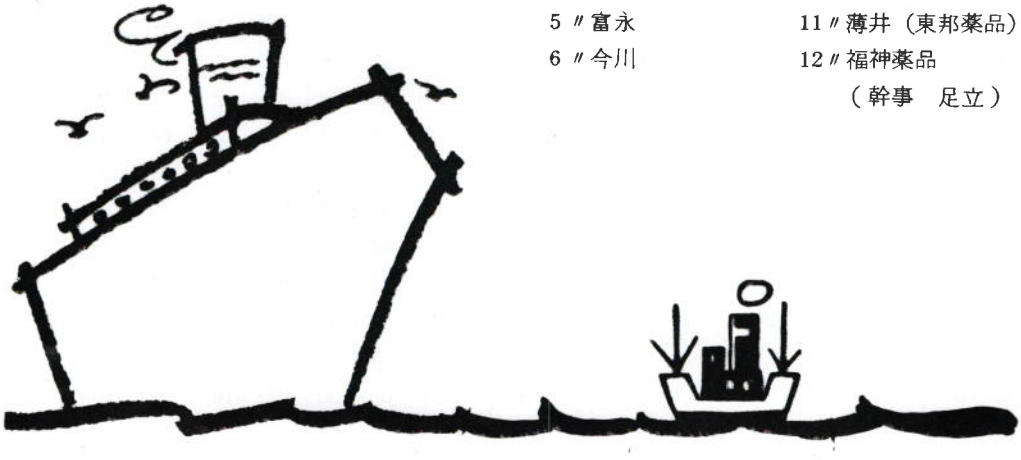
(記　甲斐)

麻雀大会

恒例の麻雀大会が7月21日(土)午後2時から、河辺の剣雀荘にて行われました。その成績は次のようになりました。

第1位川崎　　第7位甲斐原
2〃吉葉(東邦薬品)　　8〃堀田
3〃百瀬　　9〃百瀬ジュニア
4〃杉本　　10〃桂木
5〃富永　　11〃薄井(東邦薬品)
6〃今川　　12〃福神薬品

(幹事　足立)



表紙写真に添えて

神　代　橋

青梅線日向和田駅の前で奥多摩街道を南へ曲ると直ぐ多摩川に架る橋がある。この橋から上、しもどちらを眺めても素晴らしい。早朝露のある眺めなど特によろしい。

この橋の名は〝神代ばし〟

3月頃この橋を渡るとふくいくとした梅の香りが、風に乗って流れて来る。この写真は5月の終りに撮ったもので、普段は日向から日影へ、日影から日向へ渡る人が通るだけでこの通り閑散としているが、長かった冬が終早春2月ともなれば、気の早い人達の、この橋を渡って吉野梅林へ行く姿が数多く見かけられる。2、3月の日曜日にこの橋の上を眺めると銀座なみの人出が絡　と続き、交通規制まで見られて壮観です。夏ともなれば、写真の下に黒く見える多摩川に、太公望が点々と釣糸を垂れこれ又一隅の画譜となり、この附近まこと良い環境で、両岸の山々のたゝずまい、多摩の流れ、雨によし、雪もまた良し西多摩の誇りの一つで、いつまでも綺麗に残したいものです。

吉野梅林が出た序に蛇足を一つ。

〝梅〟は奈良時代に中国から入ったものらしく、千年も前に春毎に咲き誇っていた訳で、万葉集にも100首以上も梅を詠んだ歌がのっている。

我が苑に梅の花散るひさかたの
　天より雪の流れ来るかも　　大伴の旅人

春の夜のやみはあやなし梅の花
　色こそ見えね春はやかくるる　紀　貫之

花が出たから蛇足をも一つ

この時代には〝花〟と云えば梅をさしたもので、恒武天皇のみ代平安京は紫宸殿の前には右近の橘、左近の梅が植わっていたという史料が残っている由、その後桜が梅にとって代って、左近の桜になった由で「古今集」の時代には桜を詠んだ歌が圧倒的に多くなり、〝花〟とは桜を意味するようになったとか。

―少し〝学〟をヒケラかし過ぎましたかな―

青梅市　原田　広吉

あとがき

八月号は緑陰を求める会報にしょうということで、数多くの先生から、ずい筆に貴重な玉稿をいたゞきました。深く感謝いたしております。涼を求めて近くの川では近所の河童連が水遊びをしています。脱ぎすてた衣類は橋のたもとに丸めてあります。

この4月号から橋シリーズを表紙写真としていますが、近藤肇、近藤友好両先生と原田事務長の卓越した写真を拝見していますと、橋にも風格があるようです。遠景に見る中空高く聳える孤高の橋、近写した橋桁が力強く迫る橋、ゆらりゆれる吊橋の素朴な橋、その橋を介して、対岸の人と人の交流が昔からあったのでしょう。

われわれ医師会員の心の橋は、さしずめ会報もその一つでしょうか。会報は会員の声を反映する場であり、自由人として、会員として自由に発言権を行使できる場でもあります。天下り式の会報は面白味（個人差がありますが）そっぽをむかれ、興味のもてる会報の在り方を考えてみてもＡＢ会員222名のアンケートをとってきまるものでもないし、ましてや一部の編集委員の方向づけできまるものでもなさそうです。会員の身の廻りに実際に起っている事実をじっくり見つめ、その実態に対し、われわれが研究し、討議し会員がどんな考え方をしているかを知り得ることも、興味の持てる要因となり得るかも知れません。これからの医療専門団体は専門馬鹿だけでも、無策は最良の策だけでも容赦なく押寄せてくる諸問題を解決できそうもありません。対岸の火と見ず会員全体の問題として受けとめる必要がありそうです。

今月は西村邦康地域医療対策委員長を中心として数回に亘って熱心に討議して、会長に答申した〝病院新設に対応する医師会の考え方　案〟が時報として掲載されています。西村委員長がまとめられたように複雑多岐に亘る多くの問題を包摂しております。それに関し、会員が医業とは何か、営利とは何か、について正しい認識を持つことも重要な研究課題と言えましょう。医師には多くの法的義務や一般常識的（習慣的）義務が負わされています。マスコミが医師を攻めるには、法的義務や慈善、赤ひげ方式をニードとして攻めまくり、マスコミ自らの理論を守るには国民一般の権利で防禦を固めることをよく知っておく必要があります。

暑さも加っていると思いますが、新聞を読んでもニュースを聞いても頭にカッカッと血がのぼってくるのは高血圧のせいでしょうか。それとも目に見えない絹糸で徐々に身を縛られている医師の立場が背景にあるせいでしょうか。〝いや何もないのだよ〟〝ペシミストの君の悲観的な被害関係念慮だよ〟と言ってくれる人がおれば嬉しいのです。そうであれば、私の病名はagitierte Depressionであり世の中は大平楽なのですからどうぞ、今後とも、どしどし研究会報告、夏休み中の旅行紀でもよし、ずい筆でもよし、御寄稿下さいますようお願い致します。

（記　植田）

昭和54年　8月　1日発行
発行所 西多摩医師会
東京都青梅市西分3－103
TEL（0428）23－2171㈹
会報編集委員　川崎健一郎
土田　守一　堤　次雄　植田　稔
松原　貞一　桂木　真　足立　卓三
米山　秀雄　堀田　洋夫　道又　正達

印刷所　マスダ印刷　TEL（0428）22－3047

Cardioprotective Trasacor®
…ストレスから心臓を保護します。

トラサコールは、β-受容体遮断作用のほかに、やや穏やかな膜安定化作用と本剤固有の内因性交感神経様作用(Intrinsic Sympathomimetic Activity: ISA)を有する不整脈・狭心症治療剤で、過剰な交感神経系の刺激から心臓を保護します。

新発売
不整脈・狭心症治療剤
トラサコール®
錠20mg・40mg CIBA

誠意と迅速を旨として

地元に誕生した公認臨床検査センター
先生方の検査室として御利用下さい。

東京都衛医、医第52号

西東京医学研究所

青梅市千ヶ瀬4-374-1
TEL 0428(23) 3537

SANKEN

■健保適用■

ADELAVIN No.9

特　長　ほ乳動物の新鮮な肝臓から抽出したエキスを成分としています。

成分・分量　フラビンアデニンジヌクレオチド…10mg，アデニル酸並びにその誘導体・フラビンモノヌクレオチド・リボフラビンなどを含む肝臓抽出エキス…15μl（約15mg）

適応症　肝機能障害，ビタミンB_2欠乏による疾患，消耗性疾患，薬物中毒，酒毒，ニコチン中毒。

用法・用量　1回1～4mlを1日1～数回，皮下，筋肉内または静脈内に注射します。

薬　価　1管 593.00

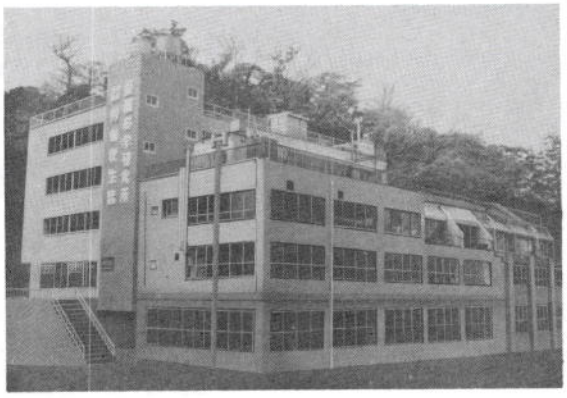
代謝改善剤 アデラビン9号

医薬品製造販売
株式会社 三和化学研究所
名古屋市東区東外堀町2丁目3番地

臨床検査センターの雄

保健科学研究所

横浜市保土ヶ谷区神戸町１０６
電話 045（333）1661（大代表）
八王子市子安町３－１７
電話 0426（26）2203・2204



○総合臨床検査センターとして20余年間地域医療に貢献し、絶大な信頼を頂いています。
○完全オンラインシステム化を実現致しました。（データー通信システム）
○関係医療機関　約 3,500ヶ所
○広範囲な検査内容
●内分泌学検査●免疫学検査●ウイルス検査●生化学検査●血清学検査●血液学検査
●病理組織検査●細胞診検査●重金属検査●水質検査

１都11県の御得意先を毎日定期的に集配致します。御一報を御待ち致しています。

今日も、あの町で、この街で。

太陽神戸はお客さま
1人1人とのおつきあいの
深さを大切にします

のマークでおなじみの〈太陽神戸〉。全国330余の店舗では、それぞれの街に密着してビジネス活動や暮らしの設計にお役に立つ銀行サービスをお届けしています。どうぞ「うちの銀行」としてお気軽にご利用ください。
〈太陽神戸〉はきめの細かいお手伝いで、お客さま1人1人と末長いおつきあいをさせていただきたいと願っております。

太陽神戸銀行
青梅支店